

平成 30 年度第 3 回浜松市創造都市推進会議 議事録

日 時：平成 31 年 3 月 20 日（水）午後 3 時 00 分～午後 4 時 40 分

場 所：浜松市役所本館 8 階 第 3 委員会室

出席者：伊豆裕一会長、寺田聖子副会長、和久田明弘委員（代理出席：後藤文化事業課長）、空屋英夫委員、桧森隆一委員、渡瀬充雄委員、石坂守啓委員（代理出席：寺田海外戦略担当課長）、内藤伸二郎監事、谷川真美監事

報道関係：2 人（中日新聞社×1、静岡新聞社×1）

傍聴者：0 人

事務局：鈴木三男創造都市推進担当課長

東畑俊次副主幹、松本英峰明主任、松島広明主任（以上、創造都市・文化振興課創造都市企画調整グループ）、森下和之副主幹（以上、創造都市事業推進グループ）

1 開会

（事務局 松本）

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、浜松市創造都市推進会議の平成 30 年度第 3 回を始めさせていただきます。

本日は、過半数を超える委員にご参加いただいておりますので、会議が成立していることを報告いたします。

それでは、本日机上に配付しました会議資料について確認いたします。

（※資料 1-1～3-2 について配布確認）

以上でございます。不足はございませんでしょうか。それでは、ここからの進行は伊豆会長をお願いいたします。

2 議事

審議事項 1 平成 31 年度浜松市創造都市推進会議事業計画及び予算(案)について

（伊豆会長）

それでは、議事にはいります。まず、「平成 31 年度浜松市創造都市推進会議事業計画及び予算（案）について」、事務局から説明をお願いします。

（事務局 松本、東畑）

（資料 1-1「平成 31 年度浜松市創造都市推進会議事業計画及び収支予算（案）」、1-2「平成 31 年度調査研究事業（案）について」に基づき説明）

（伊豆会長）

ありがとうございました。ただいま説明のありました「平成 31 年度浜松市創造都市推進会議事業計画及び予算（案）について」、何かご意見やご質問はございますか。

（伊豆会長）

広報事業の効果的な広報手段や媒体の検討とありますが、具体的にはどのようなことを考えていますか。

(事務局 東畑)

現状でウェブサイトの更新は、みんなのはままつ創造プロジェクトの情報や市内でクリエイティブな活動に取り組まれている方の記事などを情報発信していましたが、それだけでは更新の回数も限られていました。ウェブサイト以外ということでは、インスタグラムなども考えられなくはないのかなと思います。ウェブサイトを充実させることもひとつの検討課題になると考えています。ただし、現時点で具体的なものを考えているわけではないため、そのあたりも含めて検討していきたいと考えています。

(伊豆会長)

デジタル情報についても、広く発信しても関心が無ければ見ないということもありますし、ターゲットがはっきりしていれば、アナログ媒体が有効的なこともあります。次回の会議のなかでなど、案をお示しいただければと思います。また、調査研究事業についても、我々委員にも情報提供していただければと思います。

(伊豆会長)

他に、特段の意見がないようでしたら、事業計画及び予算（案）を承認してもよろしいでしょうか。

－ 異議なし －

(伊豆会長)

ありがとうございます。それでは、平成 31 年度浜松市創造都市推進会議事業計画及び予算（案）について承認いたします。

審議事項 2 各実施主体の重点事業について

(伊豆会長)

次に、「各実施主体の重点事業について」に移ります。事前に、事務局から調査票の作成の依頼があったと思います。本日は、その調査票をもとに各委員の皆様から、平成 31 年度に重点的に取り組む事業について、説明していただきます。その後、他の委員の皆様からご質問やご意見をいただき、それぞれの事業について情報共有や課題解決に向けての意見交換を行っていききたいと思います。

それでは、説明する内容や順番について事務局から説明をお願いします。

(事務局 松本)

それでは、調査票の説明する内容や順番について説明いたします。

まず、調査票の内容については、事業名、事業概要、課題・問題点、参考事例を中心に説明をお願いいたします。そして、説明する順番についてですが、資料の順番といたします。そのため、まずは事務局から提出した 4 つの事業を説明したのち、寺田委員、空屋委員、内藤委員、後藤課長、渡瀬委員、寺田担当課長、桧森委員、そして最後に静岡文化芸

術大学を代表して伊豆会長に説明していただきます。委員の皆さんの説明がひととおり終了した段階で、再び進行を伊豆会長にお願いして、意見交換や質疑応答に移ります。

(事務局 鈴木)

(「創造都市推進事業補助金」「浜松版アーツカウンシル事業」「UCCN・CCNJ 事業」「2020 文化プログラム推進事業」について説明)

(寺田副会長)

(「市民文化創造拠点施設整備事業」「浜松科学館運営事業」「ブラジルホストタウン交流事業」「歴史的風致維持向上計画策定事業」について説明)

(空屋委員)

(「創業塾」「浜松地域新産業創出会議」「浜松地域ブランド「やらまいか」」「日本一のインバウンド応援都市 浜松」宣言事業」について説明、資料2「浜松地域ブランドやらまいか」の「創造都市推進に向けた効果」の「出口戦略」を「販売戦略」に訂正)。

(内藤監事)

(「持続可能な開発目標 (SDGs) 推進事業」「外国人学習支援センター事業」「多文化共生センター事業」について説明)

(後藤課長)

(「浜松国際ピアノコンクール」「アクトシティ浜松開館 25 周年記念 第九演奏会」「バンド維新」について説明)

(渡瀬委員)

(「はままつ起業家カフェ運営事業」について説明)

(寺田担当課長)

(「インバウンド推進事業」について説明)

(桧森委員)

(「KAMOE〇〇〇DAYS (仮)」について説明)

(伊豆会長)

(「匠公開講座」について説明)

(伊豆会長)

ありがとうございました。ただいま説明のありました事業について、何かご意見やご質問はございますか。

(伊豆会長)

桧森委員からご説明がありました地域の住民を繋ぐということについて、どうしてもイベントで外部の人を呼んでということになります。この後に限らず、パラリンピックのスポーツの関係も含めて、寺田委員から説明がありましたシビックプライドの醸成ができればいいと思って聞いていました。

(桧森委員)

先ほど科学館のご説明がありましたが、指定管理を乃村工藝社・SBS プロモーション共同事業体が担うということでした。西東京に多摩六都科学館という日本でも有数の科学館がありますが、そこの事務局の次長をされていた方で、カニさんという方がいます。その方は非常に能力のある方で、地域連携の様々な活動をされていました。その方が浜松に来ていただけたらということで、私たちの鴨江アートセンターとも連携ができるのではないかと期待しています。

(伊豆会長)

乃村工藝社さんには我々も知り合いがいて、学生等含めて連携ができればいいという話はしています。また、科学館は楽器博物館と距離が近いことから、楽器博物館とセットで何か考えられるのではないかと思います。最近の新しい科学館は、デジタルネタばかりを扱ってしまいがちなのかなと思います。例えば、浜松地域の織物や織機、楽器産業やバイク産業など、伝統的な展示なども計画されているのでしょうか。

(寺田副会長)

もちろんです。浜松の土壌をどのように表現していくかということは、特徴として出していきたいです。それと同時に、桧森委員がおっしゃったように、鴨江アートセンターや楽器博物館との連携も、考えていきたいと思っています。面的な繋がりということもございましたので、浜松市文化振興財団さんもいらっしゃいますし、来年度は共に考えていきたいと思っています。

(桧森委員)

本日は説明しませんでした。鴨江アートセンターの事業では、アートとテクノロジーの融合ということも行っていますし、そのことも含めて科学館とは様々な連携ができると期待しています。

(事務局 鈴木)

音楽と観光ということで、ミュージックツーリズムという考え方があります。あるいは、クリエイティブツーリズムとあって、地域の匠の工房をツアーのなかに入れ込んでしまう。また、当市では、ヤマハ、カワイ、ローランドの工場や研究所、ショールーム、それに関連する音楽のプログラムをツアーに組み込むなどが考えられます。交流人口ということでは、観光と文化は親和性が非常に高いと認識しており、今後そのような連携が深まってくれていると思いますので、よろしくお願ひします。

(桧森委員)

余談みたいな話になりますが、弾き逃げというものが非常に流行っており、YouTube にたくさん動画がアップされています。それは何かというと、ストリートピアノを弾くわけですね。それを動画で撮ってYouTube で流すというわけです。そのメッカのひとつとして、JR 浜松駅新幹線の搭乗口のヤマハブースがされています。音楽の街ということで、あそこのブースの展示は順番に代わっていきませんが、ストリートピアノみたいなものを置いて、浜松が弾き逃げるメッカみたいになれば、ということをおもいました。

(伊豆会長)

浜松国際ピアノコンクールで2位となった牛田さんが弾いている姿が、NHK の番組で紹介されましたが、その宣伝効果が高かったと思います。また、弾き逃げだけではなく、打楽器のたたき逃げなども考えられるのではないのでしょうか。

(寺田副会長)

東名高速道路のサービスエリアにもローランドの楽器が展示されていたと思います。文化振興財団さんも使われていますよね。

(後藤課長)

そうですね。ミニコンサートで利用しています。新東名の下りがローランドさん、上りがヤマハさんだったと思います。ローランドさんは体験楽器としてキーボードをメインに展示して、休憩される方が弾いています。ヤマハさんの方は自動演奏ピアノを置いています。

(事務局 鈴木)

この間の出張で、音楽が好きな東京のデザイナーの方にお会いしましたが、その展示のことをご存知でしたので、宣伝効果があるのだと思いました。

(後藤課長)

Nexco さんの話では、音楽の企業がブースとして入っているのは、全国を見渡しても例がないということなので、浜松ならではだと思えます。また、建物についてもピアノのデザインになっていますし、サービスエリア内のソファがト音記号になっているなど、音楽をモチーフにしています。

(寺田副会長)

ヤマハのブースについては、非常に精度の高いピアノの維持をしてくれていますし、それが魅力になっています。あれだけ質の高いピアノをあ場所で弾けるということは普通ではないため、浜松ならではだと思えます。

(谷川監事)

今お話があった、浜松駅のピアノのことやサービスエリアの楽器のことは、民間企業が

出展しています。それはそのような企業があるからということもありますが、一般の方にとっては、そのブースが公的なものとして展示しているのか、それぞれの企業が宣伝として展示しているのかという区別はないわけですね。重点事業のお話を聞かせていただいて、それぞれの組織が集っているわけですが、それぞれの事業は面白いものだと思います。ただし、実際にはこれらの事業がトータルとして、周りの人に意識されているかということ、そうではないように感じます。トータルとして浜松が活き活きとした面白い街として、アピールできているかということとあまりできていないような気がします。自動車でサービスエリアを訪れた方が、ローランドの楽器を試してみたというだけではなく、浜松の街の魅力がイメージとして、創造都市・浜松をつくっていくような仕掛けや働きかけみたいなものができる、もっと浜松をアピールできるのではないかと感じました。その手法などが今後の課題ではないかと思います。

(事務局 鈴木)

先ほど広報戦略の話もしましたが、そこに繋がってくると思います。他の海外都市では、デジタルだけではなく、紙で見られるものが充実していますし、プロモーションビデオをいくつかリバイスして、そこには食も観光も文化も町並みも産業も出てくるような戦略的なPRを行っています。あるいは、ノベルティのグッズを開発して、事あるごとに配布しています。また、ブースや現場で認知度を高めていくということもあります。予算は限られているということもありますが、必要となればその予算をつくっていくことも含めて、お知恵をいただければと思っています。

(伊豆会長)

札幌市の No Maps のイベントについては、デジタル的なイベントだと思いますが、プロモーションを上手く勉強させてもらって、浜松ならではのエッセンスを出していくような活動を考えていくこともあるかと思っています。

(空屋委員)

谷川委員がおっしゃったことは非常に重要なことだと思います。数年前にシティプロモーションができて、我々の「やらまいか」ブランドも連携して、東京などに浜松の営業に行きました。市長さんとともに、下北沢を練って歩いたときもありました。現在ですと、浜松市といえば「うなぎ」だよね、と言われると思っていたのですが、当時はマスコミが「浜松餃子」を取り上げていた時代だったので、現地の皆さんからは餃子という言葉が多く出てマスコミ、プロモーションの威力を感じました。それが良いか悪いは別として、シティプロモーションに終わりはなく、繰り返し、繰り返しできる体制をつくれるかどうかではないでしょうか。

話は変わりますが、ラグビーの清宮監督がある講演会で、浜松は本当に大丈夫ですかというご発言をされました。それは、浜松駅に降りたら、ラグビーのラの字もないということです。実は、浜松はとても恵まれている土地でもあって、様々な素材はありますが、広報できていないことは課題のひとつだと思います。そのため、非常に良い提案をされたと思います。あれもあるこれもあるという話がありますが、我々も本気になって浜松を売

り込む気持ちがあるのか、あるいはいつまでに誰がやるのか、ということをお場で提案するのかどうかは分かりませんが、非常に重要なテーマではないかと思いました。

(伊豆会長)

今年の夏に私の家内と一緒に、北海道の函館から富山県の高岡まで「飛鳥」という船に乗りました。函館は港街ですが、高岡は小さな町です。その高岡に船が停まると、街の人がみんな見にきますし、船が停まるとホテルに宿泊するわけで、海外の大きな船でなくてもインバウンドの効果はあると思いました。

(事務局 鈴木)

私どもの事業で UCCN のユネスコの関係で、ユネスコ本部が国連の下部組織になります。ユネスコで国連から下りてきています、持続可能な都市開発といたしまして、SDGs の話があります。先ほど内藤委員からも事業説明がありましたが、創造都市は非常に親和性が高いということで、常にそれに紐づけをして創造都市の関連でも報告が求められつつあります。

(伊豆会長)

SDGs のイベントは何かされたりするのでしょうか。

(内藤監事)

平成 31 年度の事業につきましては、シンポジウムの開催を予定しています。それは本日の資料の調査票にも記載していますが、認知度向上の普及啓発を目的としています。また、本日はご紹介しておりませんが、国際課の業務として都市間連携サミットを多文化共生の観点で行います。その開催にご協力いただきます UCLG の関係が、国連の SDGs 採択について積極的な活動を行ってきたという自負をお持ちになっております。そのような国際連携・多文化共生のサミット、それから本日ご説明した SDGs のシンポジウムを関連づけて行っていこうと思っています。

(伊豆会長)

SDGs と聞いて静岡市で今年の始めに、ツインメッセ静岡でイベントがあったのを思い出しました。本学の学生が東京ガールズコレクションのお手伝いをさせていただいて、私も見に行ったのですが、まだ一般の人にとって SDGs の認知度は低いわけですね。東京ガールズコレクションは、何万人もの若い女の子が集まるイベントですが、その会場の向かい側で SDGs のイベントが開催されていました。その会場に入ると、チケットで粗品がもらえるみたいで、SDGs を知らない若い人に知ってもらえる良い機会だと思いました。浜松も何かのイベントと連携してはどうでしょうか。

(寺田副会長)

SDGs の周知について、連携はしていきたいと思っています。

(内藤監事)

今年の2月の市議会定例会で、SDGsに関するご質問がありました。質問を行った議員は、SDGsの認知度を向上させるために、市が行っている事業とSDGsの17のゴールの関連づけをして、というご発言がありましたが、私どもの今の時点の考え方は、SDGsのために市の事業を行っているというわけではないということです。12市町村の合併を得て、国土縮図型政令指定都市といわれる課題、つまり全国でも課題となることに対して、浜松市が対応してきたことがSDGsのゴールや理念と結びついたということです。そのため、その点は市長としても、SDGsに関して市が主導してということではなく、市民の方や官民連携を通してSDGsに取り組んでいきたいという考えです。そして、プラットフォームづくりに関しては、市の責務として取り組んでいこうという考えになります。また、静岡文化芸術大学についても、フェアトレード大学でございますし、浜松市がフェアトレードタウンということは、SDGsの前からのことになりますので、そのような観点からも認知度向上については、協力していただきたいと思っております。また、イベントに限らず認知度向上の普及啓発にも協力いただければ大変ありがたいと思っております。

(伊豆会長)

様々な情報交換や意見交換ができたということで、次に移りたいと思っております。

報告事項 平成30年度調査研究事業について

(伊豆会長)

それでは、報告事項に移ります。「平成30年度調査研究事業について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局 松本、森下)

(資料3-1「平成30年度調査研究事業について」、3-2「多様で創発的スタートアップが進むマンハイム市の現状」)に基づき説明)

(伊豆会長)

ありがとうございました。ただいま説明のありました「平成30年度調査研究事業について」、何かご意見やご質問はございますか。

(谷川監事)

Mix the Cityというプロジェクトの組織や共同関係は、どのようになっているのでしょうか。

(事務局 鈴木)

ブリティッシュカウンシルが非常に深く入っています。テリバティブにブリティッシュカウンシルのイスラエルの支局がございます。そこのエマニエルさんという方と、マンハイムの方を含めて連携を進めています。主には、ブリティッシュカウンシルが力を入れて、コーディネートしているということを聞いています。

(内藤監事)

マンハイム市のスタートアップ資金について、資料ではEUからマンハイム市まで全て公的な機関と見てとれましたが、これらの拠点の運営あるいはスタートアップ資金そのものの財源はどのようなものでしょうか。

(事務局 森下)

実際には、様々な州にファンディングを行っている機能があつてということもありまして、必ずしも州の公的機関から直接ではないと聞いています。マンハイム市からだけではなく、周辺からも集積しているということ聞いています。

(内藤監事)

この図は、機関は表しているということではなく、地域を表しているという意味ですか。

(事務局 森下)

そのとおりです。

(内藤監事)

その意味では、民間資金と捉えていたほうがよろしいですか。

(事務局 森下)

銀行も含めて民間資金もあると捉えてもらったほうがいいです。

3 閉会

(伊豆会長)

本日、予定しておりました内容は以上でございます。それでは事務局にお返しします。

(事務局 松本)

本日は会議にご参加いただきありがとうございました。

新年度の開催については、改めてご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。

これをもちまして、平成30年度第3回会議を終了いたします。